

チベット犬事情

ゆめまくら ぼく
夢枕 獏

何

度かチベットに出かけたことがあるのだが、いつも恐い想いをするのが犬である。

チャンタン高原をジープで走っていると、はるか遠くに遊牧民のテントが見える。そこから、豆つぶのような小さな黒いものが走ってくるのが見える。これが、なんと遊牧民の飼っている犬なのである。それも、車めがけて真っ直に走ってくるのではない。数分後に車が通過するであろうという地点を目指して、走ってくるのだ。

車と合流すると、狂ったように吠えながら、後を追ってくる。時に車と並走し、車のタイヤに噛みつかんばかりの勢いで追ってくるのである

車が村に着く。カメラを抱えて、村の中を歩いていると、いきなり放し飼いの犬に吠えかけられて、ほとんど噛みつか

れそうになったこともある。

明治の頃、チベットを旅した日本人河口慧海もまた犬には難儀している。遊牧民のほとんどが犬を飼っているからだ。遊牧民のテントを訪ねるのも生命がけで、慧海は持っていた杖で、寄ってくる犬をあしらいつつながら旅をした。それでも犬に噛まれていた。

しばらく前のデータで恐縮だが、日本人で犬に噛まれて、狂犬病で死ぬ人が、年に何人かいるらしい。ほくはこれを、チベットからネパールへ抜けて日本へ帰るおり、カトマンズで聞いた。

「それ、みんなチベットやネパール、つまり海外で犬に噛まれた人たちなんです」と、この話をしてくれた通訳の人は言ったのである。

チベットの犬は、痩せ細っていて、昼に見ると元気がない。しかし、夜になっ

た途端おいおいこれがおまえの本性かよというくらい獠猛になって、吠え、走りまわり、外国人などがうろうろしている

と襲ってくるのである。チベットの西にある大きな塩湖のほとりの村で、夜半にトイレに行きたくなり、外のトイレに行ったのだが、犬の群にトイレを囲まれて、外に出られなくなってしまうことがある。屋根のない壁だけのトイレであったので、なんとか、壁一つまり塀の上に登ってそこで夜明かしをした。ほくが、壁の上に逃げたとたん入ってきた犬が、ほくの出したまだ温かいウンチを眼の前で食べていったのには思わず感動。夜が明けて、燃料のヤクの糞を拾いに来たおばあちゃんに、塀の上から飛びつくようにして駆け寄り、やっと脱出したのでした。

- 1 エッセイ 世界へ●世界から
チベット犬事情
夢枕 獏
- 2 特集 常設展示リニューアル
西アジア展示が生まれ変わりました
西アジア常設展示改修にあたって…… 西尾 哲夫
ペルシアの市場にて…… 高山 龍三
旅する楽器…… 水野 信男
哀悼の〈かたち〉…… 山岸 智子
刺繍から想うパレスチナの故郷…… 錦田 愛子
- 8 モノ・グラフ
社会と時代が織りなした
ナシ族画家の出現
横山 廣子
- 10 地球ミュージアム紀行
神奈川県立地球市民かながわプラザ・あーすぶらざ
手づくりの温かさで現代世界を伝え、考える
林 勲男
- 11 表紙モノ語り
ラクダの道具と装具
上羽 陽子
- 12 みんぱくインフォメーション
- 14 万国津々浦々
バドウィンのテントで明かした夜
山中 由里子
- 15 時論 新論 理想論
俳優デヴィッド・ガルピリルのこと
松山 利夫
- 16 多文化をささえる人びと
子どもたちの小世界
ブラジル人学校のいま
庄司 博史
- 18 生きもの博物誌
マオ・グアは母の味
宮脇 千絵
- 20 歳時世相篇
曳山と風流 春の祭りの民主主義
笹原 亮二
- 22 フィールドで考える
結婚相手を選ぶ術
松尾 瑞穂

- 24 みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記

1951年、神奈川県生まれ。東海大学文学部日本文学科卒。77年に作家活動を開始。「キマイラ」、「サイコ・ダイバー」、「闇狩り師」、「餓狼伝」、「陰陽師」などのシリーズで読者の支持を集める。89年、『上弦の月を食べる獅子』で第10回日本SF大賞受賞。98年、『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。近年の著作に『沙門空海 唐の国にて鬼と宴す』、『シナン』、『東天の獅子』などがある。